

w a

アート、みつけよう！

winter
2013

vol.60

アーティストエッセイ

書家 紫舟

ART TRIP in KYUSHU

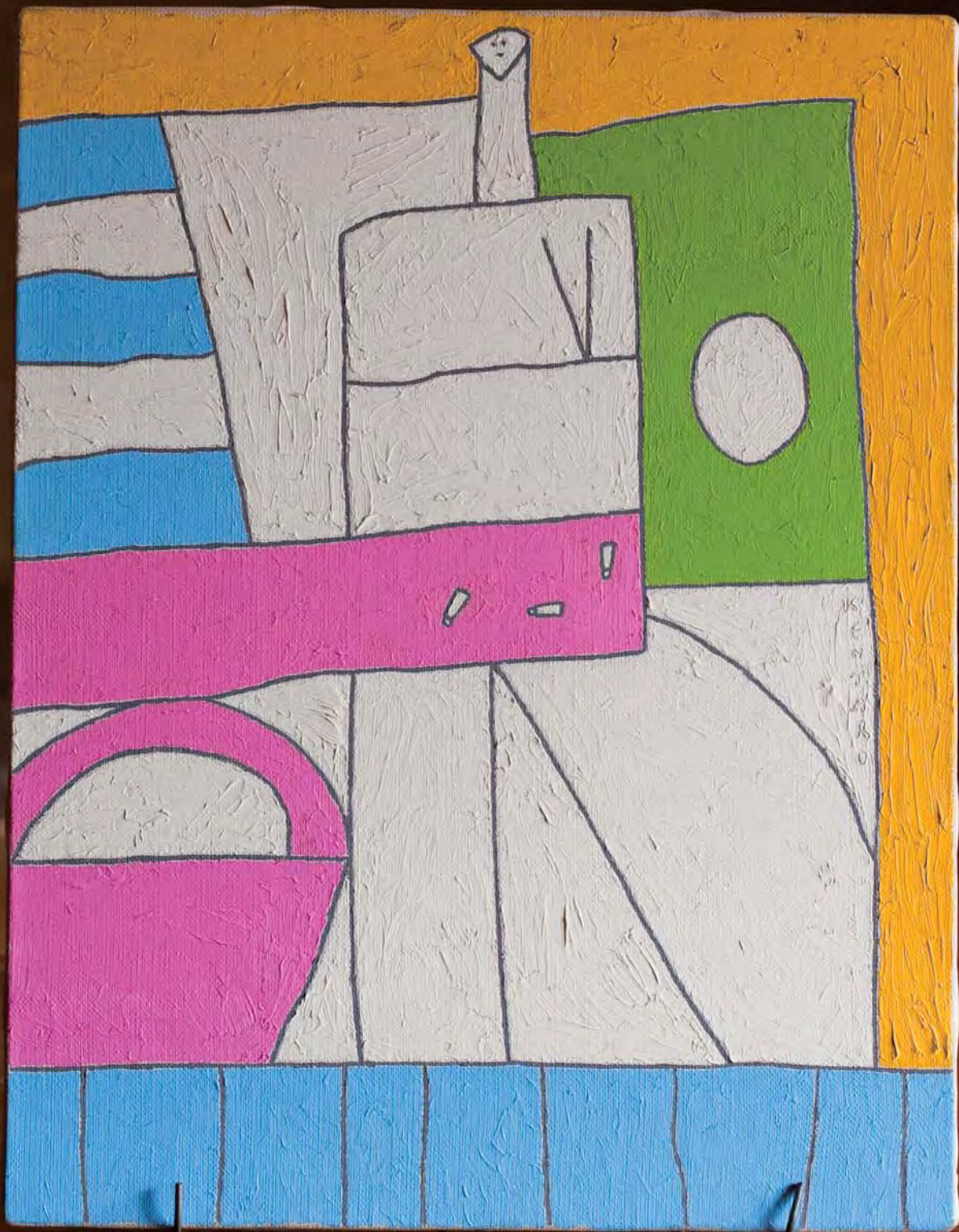
大学ミュージアムに行こう！

あのアーティストに会いたい！

現代アーティスト 山内光枝

はこぼなし

いじ☆かる studio



福岡市文化芸術振興財団
Fukuoka City Foundation for Arts and Cultural Promotion

桑迫賢太郎

Kentaro Kuwazako

PROFILE

画家。1979年鹿児島生まれ。長崎大学環境科学部在学中にNGO活動でカンボジアに滞在し、自然と共生する暮らしに感銘を受ける。2003年に長崎県西海市の雪浦に移住し、自然農による自給自足の暮らしを目指しながら創作に取り組んでいる。



- 2011 個展「陸路と雨」(長崎県美術館)
- 2013 個展「種を撒くとき」(福岡 / cafe space barva)
- 2013 カレンダー原画展(久留米 / カンブツ屋+cafe空豆)



untitled



ピンクの傘と三毛の猫

月齢カレンダー 2014 発売中!

桑迫さんの心暖まる絵とことばで構成された壁掛けカレンダー。月暦を意識した毎日を通して。A4版 / ビーズ糸付 / 1,575円(税込)

〈ご購入についての連絡先〉
[wa]編集部 内田
TEL: 092-263-6265 E-mail: pr-co@ffac.or.jp
アートリエにてカレンダーと作品ポストカードを販売します。12/13~2014年1/31



アーティスト問一答

絵を描きはじめてきっかけは?

10年ほど農的暮らしを続けていて、ふと、「毎日楽しいけど心の底から喜んでいるだろうか」と疑問がわいてきました。もともと絵を鑑賞するのが好きだったので、自分も何か表現してみたくなり、最初は納屋にあったベニヤ板に絵を描いてみました。

絵や絵本のテーマは?

絵はタイトルとなる言葉や、飾る空間のイメージで描くことが多いです。絵本や紙芝居では、「平和」や「人権」について、できるだけ柔らかく伝えたいと思っています。

作品に関して印象に残っているエピソードは?

「雪浦ウィーク」*の時、ある作品の前で小学生の女の子が「欲しい」とその場から動かなくなりました。その時は連れ帰られたのですが、後日お母さんから電話があり、「誕生日に何が欲しいかと聞いたら、どうしてもあの絵がいいと言うので…」と買いに来てくれたことです。

雪浦の魅力的なところは?

アーティストや手工芸の作家が住んでいたり、美味しい味噌や酢の老舗があったりと、面白い人やモノが集まっていること。みんな顔見知りで、人と人の距離もほどよく、自分の「ふるさと」と思える温かな雰囲気があります。

これからどんなことをしていきたい?

“大切なものがすべてある”この場所で、絵を描き続けていきたい。そしていつか海外でも個展を…なんて大きな野望もあります(笑)

*雪浦ウィーク…雪浦をこよなく愛する、地域内外の人たちによって行われる、ものづくり、暮らし、アートなどの交流イベント。毎年5月頃に開催。

artist essay

私の「手の届くアートの楽しみ方実践」を、二点ご紹介いたします。
一点目、クリエイティブしよう!
欲しかったものを自分の手から生み出し、形にする醍醐味を味わう。
私たちは、お金を払って楽しみを手放していることがたくさんあります。例えば、ガーデニング。プロにお願いすると見事なお庭が一瞬で広がりますが、ホー

ムセンターやお花屋さんで、迷いながら選んだ好みの花の苗を植え毎日水をやり、草むしりをして、手間をかけ成長を楽しみ、そして咲く誇らしげなお花!自分の手でクリエイティブする楽しみです。
私の暮らす空間には、手作りのものがたくさんあります。その一つが、テーブル代わりの古いスーツケースの上に置いて

日々アートと共に

ットし、額に入れ、額の上に強化ガラスを置いて、ガラスを置くためのコースターとして手作りしました。ひと工夫すれば、いつもお気に入りのものに囲まれて過ごすことができます。

二点目、モノと想い出。アートを買ってみよう!
自分で選んだアート作品にはその時の思い出が宿り、「人生のアルバム」になります。

海外を旅した時には、その国のアーティストの作品を買うようにしています。そこに至る過程で、その国をより深く知ることが出来ます。自宅にあるブリキの「フライングビッグ(羽のついたブタ)」は、オーストラリアの思い出。帰国する際に通った手荷物検査場では、その滑稽なおブジェに、X線検査の検査員が大爆笑でした!

ほかにも、繊維強化プラスチックでできた、まるで本物のような3匹の鯉は、シンガポール産。購入後、アーティストが持ち帰りやすいようにと、古びた発泡スチロールの中にその鯉たちを入れてくれました。そのおかげで、日本の税関では「まさ

か生の鯖とか入ってませんよね!」と疑いの目を向けられることに:。「いえいえ鯉です」とも言えず、丁寧に事情を説明しようです。
たこともよい思い出になっています。旅先で手に入れる作品には、その時々々の旅の思い出が宿り、新たな命が吹き込まれるようです。

世界の国々を旅して思うことは、私たちが日本人は美術館が大好き! オルセー美術館、MOMA、大英博物館:おそらく日本人は世界一アートを飾っている人です。しかし、家にアートを飾っている人はまだまだ少数派。ぜひ本物の絵やオブジェ、アート作品を購入し、季節によって掛け替えたり、お客様に合わせてコーディネートする日本流の「もてなし」や「しつらえ」を暮らしの中に取り入れ、手に届く豊かさを楽しんでみてください。

紫舟

書道家

SISYU

書を中心に、書画・立体造形・メディアアートなど幅広く手がけ、日本の思想と伝統文化を全く新しい表現で世界に発信。「文化の限界をアートの力で超えていく」挑戦は海外でも高く評価され、フランスでは Laval Virtual「設計文化芸術賞」を受賞。国内では、政府・NHK・神社仏閣などに作品を提供している。社会貢献活動として東日本大震災復興支援「日本一心プロジェクト」を主宰している。

Photo by T.Kurimoto



書「創造人」

創造人、創造の「創」という字の「リ」を「人」にした造語、作品タイトル「創造人」。未来への困難に立ち向かい、それでも創造することを諦めなかった時代を創り出す人の意。

ARTLIER 文化芸術情報館アートリエ



〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1
福岡アジア美術館内7F
営業時間: 10:00~20:00(チケット購入は19:30まで)
休館日: 水曜日(祝日の場合はその翌平日)、12月26日~1月1日

お問い合わせ:
Tel: 092-281-0081, 092-281-0103
Fax: 092-281-0117



アートリエでできること

1. 全国の文化アート情報をつめる
福岡・九州はもちろん、全国のアートイベントやコンサート、舞台などのフライヤーや冊子を常時300種以上設置しています。
2. チケットを購入する&委託販売をする
・映画、演劇、コンサートなどジャンルを問わず全国のチケットを販売。併設の「チケットぴあ」ですぐに購入でき、席もお選びいただけます(混雑時を除く)。
・前売りチケットよりお得な「優待チケット」はアートリエだけ! イベント主催者の方から、各種チケットの委託販売も受け付けます。
・店頭POPやFacebook、メールマガジンなどで広報もお手伝いします。
3. 相談する
財団の後援名義の使用申込みや、イベント探しのお手伝いをします。

wa vol.60 2013年冬号(2013年12月13日発行)

発行 発行 公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団 発行月 3・6・9・12月(季刊)
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10 発行部数 25,000部
福岡消防会館6F 配布場所 九州・全国の美術館・博物館、文化・アート関連施設、文化芸術情報館アートリエ、福岡市情報プラザ、市内公共施設、福岡市地下鉄各駅ほか
Tel: 092-263-6266 Fax: 092-263-6259
www.ffac.or.jp

編集 内田光香
編集協力 デザイン 中川たくま / イラスト 中川なつき(青い月)
撮影 坂本尚美(表紙:P2)
印刷 大成印刷株式会社
©(公財)福岡市文化芸術振興財団
本誌掲載記事・写真等の無断転載および複写を禁止します。

アートの未来

目の前の現実全力で「反応」し続けていたい

山内さんは映像や写真を用いたインスタレーションを中心に、観る人が視覚だけでなく身体全体で感じられるような作品を制作されています。その出発点はどこにあるのでしょうか。

中学・高校時代、よく宇宙について考えていたんです。数学も物理も哲学も、本来、すべてはこの宇宙を知るためにあると思っていましたので、科目別に学ぶことがとても不思議でした。そんなとき、偶然足を運んだ展示会で、最先端のテクノロジを駆使しながら、五感を刺激し、人間の身体性を呼び起こすようなインタリアのスタジオ・アツズーロの作品に出会い、宇宙とダイレクトに対峙できる入り口はこれだ！と直感しました。

私が通っていた高校では、卒業時を見続けています。最低限の道具だけで、数千年前からほとんど変わらない、人間の営みの根源を体現しているような存在です。彼女たちが今、生きて呼吸していることが尊いのです。彼女たちとの出会いを道標に旅をしながら、人間の生き様のルーツを辿っているように思います。

例えば2013年に約3ヶ月間、済州島の海女学校に入学するなど、創作するにあたって徹底的に現場に深く踏み込むのはなぜですか。

他人ではなく自分の眼で見て、自分の手で触り、自分の足で歩き、自分の耳で聴くことは、表現する者の原点だと思います。新聞やテレビ、ネット上で出会う情報がきっかけとなることは多々ありますが、2次情報の過食によって、世界がわかったような気になり、生物学的な動が



「嗚呼」2012-13 / 3-チャンネル ビデオインスタレーション(カラー、サウンド、3:30ループ再生)

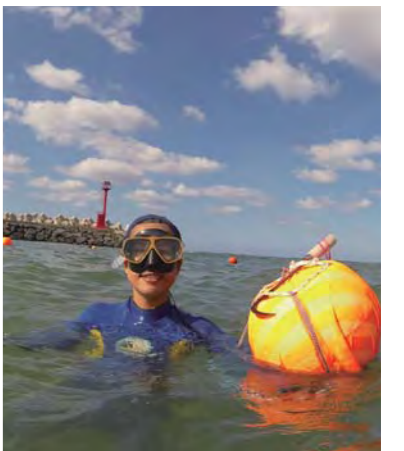


「ワタのもり - ごつごつとしたたくさんものたち」塩(塩竈の藻塩)、海水(塩竈湾)、ケント紙、漁り火電球 950 x 190 cm

no.3

山内光枝さん

TERUE YAMAUCHI



PROFILE

- 1982 福岡県生まれ
- 2006 ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ BA ファインアート卒業
- 2013 チェジュ・ハンスプル海女学校(済州島) 修了

個展

- 2012 「ワタのもり」ギャラリー 58(東京)
- 2013 「嗚呼 海的女と水脈をめぐる旅 WATAGATA 2013」konya-gallery(福岡)

グループ展

- 2012 「VOCA2012- 新しい平面の作家たち」上野の森美術館(東京)
- 2012 「NET-CO ワタガタアーツフェスティバル2012」アーカイブセンター(釜山)
- 2013 「Landings」Witte de With Contemporary Art (ロッテルダム)

受賞

- 2010 「世紀のダヴィンチを探せ・国際アートトリエンナーレ」審査員特別賞(大阪)
- 2013 Allotment Travel Award 2013

に学校生活の成果を何らかの形で発表することになっていました。私は、当時生活していた学校の寮の浴室に紙を敷き詰め、身体を筆のようにインクまみれにして、その頃抱いていた将来や進路に対するフラストレーションを思うがままにぶちまけました。後に、アクション・ペインティング(※1)やイブ・クラインの「人体測定」の存在を知り、私もアートの道に進もうと思いました。

た。最初は周りに追いつくのに一杯で、挫折しそうになったこともありました。今思えば、「学生」ではなく「アーティスト」という意識を持った様々な背景の人間が集う中で、お互いの表現や活動について積極的に議論し合い、また現役で活躍するアーティストが、「先生」ではなく「先輩」として助言をくれる、本当に恵まれた環境だったと思います。ここでの経験は、世界の一部である人間という生き物の在り方を、あらゆる側面から探求している、現在のスタイルに繋がっています。

ゴールドスミス・カレッジのカリキュラムは、スタジオでの制作以外にも、美術史や思想、理論をしっかりと学べるもので、あえて自分にとって弱点を鍛えられる道を選びました。

ここ数年間は海女や海に注目して創作に取り組んでいます。そのきっかけは何だったのでしょうか。

鈍ってゆく、そんな自分に対する危機感はいつもありました。

海への想いは昔から漠然と抱いていました。2005年には、向か

現場は、自分の勝手な事情や思惑とは全く別のところにあり、ごまかしが効かず、事前準備もできない。私にとって最も存在していたい、最も怖い場所です。そこへ自分を存在ごと投げ込むことで、世界が容赦なく、想像外の領域へと私を押し流してくれま。そのカタルシスのような恐怖心に耐えながら、世界のよりよき眼であり身体であり声であるために、日々潜在意識を高めていたと思うのです。

私は長い間、都合良く乱用され、骨抜きにされてきた「交流」という言葉が嫌いでした。でもある日、フェリーのデッキから群青色の海を見ながら海峡を渡っていたとき、ふと、「交流」というのは、交ざりあひながら今という時代を共に流れてゆくことなのかも...」と思いつかび、「この言葉が身体にストンと落ちてきました。

海女の現場では、私だけ船上に残り撮影していた頃はカメラの存在が相手との距離を隔てていました。海女学校を出てからは「後輩」や「仲間」として少し近くに置いてもらえている気がします。私は、様々な対話や関係性のなかから、私と相手との間に何が生まれるかを目撃してきたいのです。

国や都市の交流といっても、個々の密接な触れ合いなしには、交わりも新たな流れを生み出す摩擦も起きず、ただ空虚な思想だけが残ります。ひとえに福岡といっても、地域ごとの風土に育まれた、たくさん生活文化が重なり合って存在しているように、本来のその豊かさの前で、「アート」

今後どんな活動をしていきたいですか。

この数年、どう考えても私個人の運や努力の域を超えた経験に恵まれてきました。これからは、人為的及ばない領域を畏れつつ、勇気を持って目の前の現実を全力で「反応」し続けたいと思います。振り返られてなんぼですから(笑)

い合う2つのスクリーンに、海から現れては選んでゆく女性の映像が交互に映し出される「momento」という作品を制作しています。それから数年後、荒波立つ海に裸身のまま潜っていく、たくましい女性の写真を見ました。その写真が捉えた約半世紀前の海女の生活世界には、人間が生き物として備えている感性や本能が満ちている気がして、引き込まれました。調べたところ、日本海側の海女の主たるルーツが福岡県宗像市の鐘崎であることを知り、何か運命的なものを感じました。海はすべてが生まれ選んでいく、生と死が同じ存在感を持つところだと感じます。私たち人間は、大海原に出れば、どんな最新の船舶を駆使しても、ひとたび風が吹けば無防備な赤子のようになってしまう...。海女は、生身をその海に浸し、毎日海の中



右: 済州島・下道里にて。先輩海女に身支度を手伝ってもらう。左: 対馬・佐須奈にて。漁の合間に昼食を食べる船上でのひととき。

山内さんの作品に出会えます!

福岡市美術館

1 『想像しなおい』

2014年1月5日(日)~2月23日(日)

社会システムやルールの上にはりめぐらされた不可視・不可知の領域に手を伸ばす6人の作家たちによるグループ展。参加作家 / 狩野哲郎、川辺ナホ、大西康明、手塚愛子、山内光枝、山本高之

2 『没後50年 - 上田宇三郎 展 - もうひとつの時間へ』関連イベント

「時のあじわい、日々のにおい - 『上田宇三郎日記』を読む -」

2014年1月19日(日)、2月2日(日) 14:00~

福岡市美術館 1階講堂・教養講座室 宇三郎の見た映画を鑑賞し、彼の愛した珈琲と共に山内さんのトークと日記の朗読に耳を傾ける。 ※先着30名、13:30より受付。コーヒークップ持参。



福岡市中央区大濠公園1-6 開館時間: 9:30~17:30(入館は17:00まで) TEL: 092-714-6051 / FAX: 092-714-6145

はこばなし

劇場、ホール、音楽堂…
福岡の文化は街の“はこ”から。

#11 いじ☆かる studio 学生とつくる商店街の芝居小屋



演劇でまちを元気に
西鉄井尻駅を降りてすぐ、400mほど延びる井尻商店街。昔ながらの八百屋や肉屋が並び合間に、シャッターの閉まった店舗がチラホラ…。

「戦後20年間くらいは買い物客でにぎわっていたそうですよ。でも今は空き店舗やマンションが多いですからね、ほとんどの人が素通りしてしまいます」

そう話すのは、井尻を最寄り駅とする福岡女学院大学で、演劇を教える岩井眞實教授。福岡女学院には2001年から演劇を専門的に学べる学科があり、学生たちによる公演には定評があります。それまで授業の発表や公演は学内のホールや貸しホールを利用していましたが、2013年に学科のリニューアルで「言語表現学科」が新設されたのを機に、かねてから望んでいた自分たちの拠点として、井尻商店街の一角に小劇場「いじ☆かる studio」をオープンしました。

自ら演劇人でもある岩井先生、「井尻は乗降客数が一日約2万人と、普通電車のみ停車する駅の中では多いそうです。ここに、仕事帰りにふらっと立ち寄れる芝居小屋があったらいいなと思っていて。演劇で人を呼びこむことで、井尻のまちの賑いに役立てるかも…」

元洋品店だった空き店舗を学生たちの手で2ヶ月かけて改装し、看板などもすべて手づくり。現在、岩井先生を含め職



稽古風景。手前がお話を伺った岩井眞實教授。



2013年11月2日～9日盛況に終わった、「井尻商店街物語」(第21回ふくおか県民文化祭2013の一行事)。

いじ☆かる studio
福岡市南区井尻 4-2-40
TEL: 092-575-3854 (戦略広報課)
最新情報は Facebook にて
<https://www.facebook.com/ijicstudio>

地域と共に考える商店街のこれから
オープンからおよそ一年半。学生たちによる、『井尻商店街物語 ばい。くさ。たい。』が上演されました。とある商店街にある老舗の鰻屋を舞台に、昭和45年頃から現在、そして未来へと時が移り変わるなかで、「井尻商店街のこれから」を重ね合わせて考えていく物語です。作・演出は、博多の怪優“と呼ばれる伏見武氏。商店街のリサーチやチラシ制作、照明、小道具などはすべて学生が担当しました。

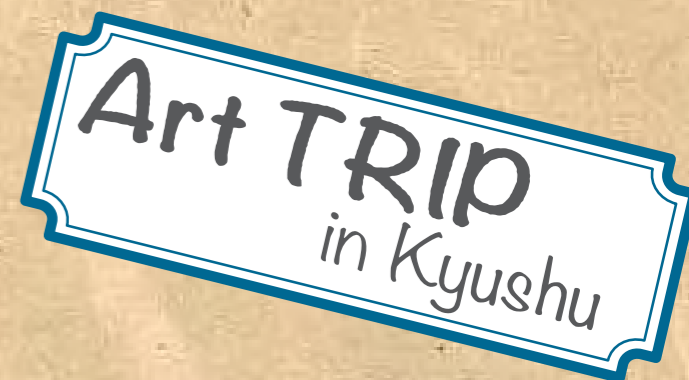
2013年秋の公演本番、劇場は地元の人や常連で満席。全編こころの博多弁でユーモアたっぷりの内容に、客席はた

びたび笑いに包まれます。途中で観客を舞台に引っ張りあげて本人に昔話を語らせる演出もあり、客席と役者が一体となって楽しんでいました。最後は、昔の活気を懐かしむ世代と、商店街に出店する若者が出会い、仲良く盛り上がったところで完結。オープン以来初の9日間におよぶロングラン公演をやり遂げた学生たちからは、「皆さんの記憶に残る演技をしたかった」「緊張したけど、お客さんに懐かしい気持ちになったと言われ嬉しかった」の声。観客の方々は、そんな学生たちの熱意に打たれていたようでした。

岩井先生は、「学生たちも地域の中で様々な目にさらされてこそ、大きく成長できるんだと思います」と話します。さらに、「上演芸術の魅力を知ってもらうには、身近に観に行ける場所があることが一番。多少不足があっても自分たちで工夫して手づくりすればいいので、空きスペースなどを利用した小さな小屋があちこちに増えたらいいと思います」とも、「地域に愛される小劇場」は、まちと文化発展のキーワードになりそうです。

身近にある知の宝庫 大学ミュージアムに行こう！

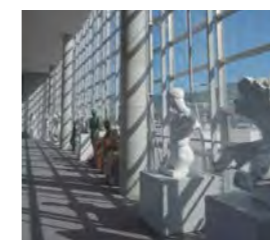
大学ミュージアムには、その大学の研究成果や資料、美術品などが所蔵されています。その多くは、展覧会やイベントなどで一般にも広く公開されており、意外な「宝物」に出会えることも！ 今回は福岡市内にある3館をご紹介します。



大学から地域へ、アートの魅力を伝える 九州産業大学美術館



九州産業大学美術館



オープンスペースでは高田博厚の彫刻作品などの常設展示も。

福岡市東区松香台2-3-1 Tel: 092-673-5160
入館料：一般200円 学生100円
10:00～17:00 (入館は16:30迄) 月曜休館
<http://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/>



○平成25年度九州産業大学芸術学部卒業・修了制作展 1月22日(水)～1月25日(土)
○九州造形短期大学松永楠生教授退任記念展 2月8日(土)～2月16日(日)

国内外のキリスト教文化を知る 西南学院大学博物館



博物館正面



2階講堂

福岡市早良区西新3-13-1 Tel: 092-823-4785
10:00～18:00 (入館は17:30迄) 入場無料
日曜、12/25、年末年始(12/28～1/5) ほか休館
<http://www.seinan-gu.ac.jp/museum/>



せいなんこどもワークショップ「イースターエッグをさがせ」
3月8日(土)10:00～12:00 ※詳細はお問い合わせください。

集い、学び、参画できる 九州大学総合研究博物館



常設展示室



第一分館骨格標本室

福岡市東区箱崎6-10-1 Tel: 092-642-4252
常設展示室(旧工学部本館3階) / 月～金 10:00～16:30 入場無料
第一分館(旧工学部知能機械工場) / 一般公開日を設定して開館
<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>



「ミュージアムバスの世界—九州大学の標本・資料を魅せる—」
九州大学総合研究博物館・福岡県青少年科学館 共催 12月7日(土)～2014年1月7日(火)
場所：福岡県青少年科学館 ※詳細はウェブサイトでご確認下さい。



東北からの報告

7 反映の欠落



9/11 メモリアル&ミュージアムのモニュメント「Reflecting Absence」(ニューヨーク / 筆者撮影)

「畏怖」という言葉があります。「おそれること」のほかに、「物事に恐れ、たじろぐこと」などの意味があります。

2011年、マンハッタンに「9/11 メモリアル&ミュージアム」がオープンし、10年前の惨事を祈念するモニュメントが公開されました。「欠落の反映 (Reflecting Absence)」と名付けられたそれは、若い建築家マイケル・アラドによる設計のもので、もとの貿易センタービルが建っていた根元にふたつ、巨大な滝と池がつくられています。池を囲む四方の壁には犠牲者の名が彫られ、そのすぐ背後に水がためられており、いずれ、水は観る者から離れ、奥の滝へと流れ落ちていきます。10mほど下の正方形のプールに落ちた水は一度落ち着き、さらに中央の溝へと静かに吸い込まれていきます。じつさいその場に立つと、周囲からは中央の溝の底が見えず、自身の目前にあった水が地の奥底へと静かに落ちていく様を見届けるしかありません。圧倒的な「畏怖」の感覚でした。

では、東日本大震災という未だ進行中の、それ以前と以降とでなにかがかわってしまったようなこの事象を、わ

たしたちの社会はどのように記すのでしょうか。

震災後、天災、人災に関わらずさまざまな災害にまつわる資料室やミュージアムを訪ねました。あらためて、いわゆる歴史的事象はどのように記録され祈念されるのか、確かめる必要があるように思えたのです。広島平和記念資料館、水俣病資料館、中越メモリアル回廊、9/11メモリアル&ミュージアム、ホロコースト・メモリアル・ミュージアム、そして気仙沼のリアスアーク美術館を目的の当たりし、それぞれの「伝えようとする意思に基づいたさまざまな創意工夫や英断とともに、ことの難しさも体感することができたように思います。

この夏、気仙沼に打ち上げられた漁船が解体され、いまま南三陸の防災庁舎の保存の是非が議論されています。ただ、モノを残すことのみならずあらためて、わたしたちはこの事象をどのように未来に伝える、つまりは表現するのでしょうか。そこに、アートの本来的で社会的な役割を確信しつつも、果たして、この社会はどのようにそれを表現するのでしょうか。



甲斐賢治

かいけんじ ●せんだいメディアテーク 企画・活動支援室室長。大阪生まれ。主に地方行政の文化施策に従事し企画・運営に携わるとともに、NPO 法人 remo、recip、art NPO link、hanare などの設立と活動に参加。社会活動としてのアートに取り組む。2010年春より現職。平成23年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

せんだいメディアテーク www.smt.jp

2001年開館。美術や映像文化の活動拠点として、すべての人々がメディアを通じて自由に表現・交流するためのさまざまな公共サービスを提供する。記録・発信による支援活動を行う「3がつ11にちをわすれないためにセンター」、人々が集い語り合いながら震災復興や地域社会、表現活動について考えていく場「考えるテーブル」などのプロジェクトも行われている。

アートが変える人とまち コミュニティ × アート NO.3

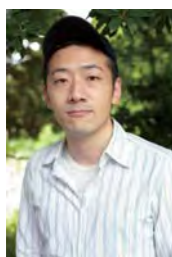
アーティストと住民が交流することで、まちが元気になったり、キラリと輝きだしたり... まちづくり、福祉、教育などさまざまな場面でアートが生み出す「楽しい変化」とは?

世の中には分からないことが多くあります。これらを既存の価値観や言葉といった定規に照らし合わせ、「見える」ようにすることは肝要です。けれど、また一方で「見えないこと」と向き合い生まれる何かには、これから生きる私たちへの可能性やヒントを感じています。

2012年夏、世界有数といわれる仏アヴィニオン演劇祭へ足を運び、振付家ジェローム・ベルとスイスの劇団による「Disabled Theater」を観た時のことです。11名の障がい者の方々が出演するこの劇場公演は、ナレーションによる機械的でシンプルな指示に従うよう個々人が舞台前に立って、自己紹介や特技を披露します。時に激しく踊り、時に微動だにせず客席と見つめ合ったり... 彼らの個性や感情が解放され、劇場全体を飲み込んでいきます。もちろんそれは、彼らの日頃の修練の結晶にも見え、演者と観客のあいだにある見えない境界線が霧散するような体験となりました。

「アートの力」とは?

淡く柔らかな
変化を感じる力



里見 有祐

(公財)横浜市芸術文化振興財団・協働推進グループにて地域と共に活動する芸術文化事業支援をはじめとする市民協働に従事。高校卒業時に結成した「ペビン結構設計」にて現在まで演劇活動を行っている。

舞台と客席の あわいに

発表が行われています。参加者の一人であるエイゴさんは、舞台に立ちながらもじっと一点を見つめ、その場に佇み存在感を醸し出していました。過去最多の来場者があった2012年の公演では、新たな一面を見ることができました。賑やかな会場から、これまでより足取りも軽やかに、舞台中央から客席を見渡していたエイゴさんが「アッ!」と発語した瞬間...。2年ばかりのお付き合いではありましたが、初めて聞いたその一声に心が震えました。

あの発語が意識されたものかは知る由もありません。ですが、表現活動を継続する活力、そしてこれを育む環境や周囲との関係性が、こうした瞬に繋がりを、私の心も動かされました。コミュニティにおけるアートは、そうした淡く柔らかな変化を「感じさせる」場所だと実感した場面でした。

계간 부산-후쿠오카 예술방담

季刊 福釜藝術放談

点から面の交流を期待

前回、日韓の芸術交流がハレ(非日常)からケ(日常)へと移行することに述べてきたが、実際に美術や演劇、映画など様々な分野で最近いろんな動きが起きており、それぞれをフォローしていくだけでも結構大変になってきている。うれしい悲鳴というやつだろうか。しかし、交流が活発化して行く中で少しずつ見えてくるのは文字通りの「国境の壁」以上に自分たち日本人同士の中にある「内なる壁」である。例えば、それこそ美術、演劇、映画、音楽といったようなジャンルの壁だ。バラバラに点でやるより、面で交流した方が相乗効果もあるに違いないが、意外と福岡という狭い地域の中でも、ジャンルを超えた交流は少ないようだ。

地域の壁もある。経済の話だが、こういうことがあった。釜山市と福岡市の間で、釜山市側は自動車関連産業の交流を活発化させようと躍起だったが、実は福岡市内には自動車関連産業は少なかった。そのため近年、福岡側は福岡県全域に対

象を広げて交流を進めているのだ。その結果、自動車産業の物流では両国のナンバーを付けて自動車部品を運ぶトレーラーがフェリーで両国間を往來して走るまで国際分業が進みつつある。

芸術交流でも九州全域へと範囲を広げていかないと、相手側が望む交流の受け皿が福岡だけでは見当たらないというケースが今後たくさん出てくるだろう。例えば演劇分野では北九州芸術劇場を中心に福岡市以上の盛り上がりを見せる、北九州市の演劇関係者との連携は欠かせない。

よく「日韓は合わせ鏡」と言われる。実は隣国と向き合うとみえてくるのは自国のことであり、個人の意識レベルでも自分が常識だと思っていたことがどこでも通用するわけではないことに気づいたりする。

いわゆるグローバル化でありゆる壁が崩れて、地域の個性が失われることには私も反対だ。国一地域一自分一いろいろなレイヤー(層)に存在する壁が本当に必要かどうかを一度は疑ってみることは重要である。福岡釜山の交流も、実は他者と出会うことで自分を客観視する目を養うことにこそ意義があるのではないだろうか。

昨年、北九州空港には釜山市の金海空港との間にスターフライヤーが一日2往復開通している。業績悪化で運休が決まったようだが、北九州市も釜山との交流に力を入れている。関釜フェリーが昔から往來している山口県下関市も含めて、それぞれがバラバラに釜山市と交流し、国内の近隣地域同士で釜山市をめぐって綱引きをするようなことがあるのは好ましくない。加えて交通手段が発展している近年は距離が近いというアドバンテージは絶対ではなく、釜山市からすれば東京や大阪といった日本の大都市との交流も視野に入っている。さらに言えば中国など海外も福岡市にとっての交流のライバルなのだ。

そういったことを考えると、経済においても文化においても、九州・山口の近隣で連携しながら、点から面の交流を展開していくべきだろう。

内門博 西日本新聞記者。釜山駐在を経験し、韓国を愛する記者が、福岡と釜山の文化・アートシーンについて書き綴ります。

FFAC PROJECT REPORT

文化芸術情報館アトリエ発 アトリエ・アトリエ 街じゅうこどもアトリエプロジェクト 秋のアートワークショップ!

「文化芸術情報館アトリエ」が始めたアート体験プロジェクト「アトリエ・アトリエ」第1弾は2013年秋、子どもたちのための3つのワークショップを開催しました。講師はみんな福岡を拠点に国内外で活躍するアーティスト！学校や家庭ではできないアート体験を通して、子どもたちの想像力と表現力を引き出します。

太陽の光を使って絵を描こう！ ソーラーパワードローイング

2013年10月14日体育の日、博多リパレインの屋外広場にて、アーティストの宮田君平さんによるワークショップを開催しました。集まったのは小学1年生から4年生までの10人の子どもたち。虫眼鏡で太陽の光を集め、約30センチ四方の木の板を焦がしながら、好きな絵を描いていきます。「僕がひとり海外を旅していた間は、電気の代わりに太陽電池で携帯電話を充電していたよ」

太陽の力で何ができるか、
作品をつくりながら考えてみよう！

宮田君平
1981年宮崎生まれ。福岡教育大学大学院美術科修了。福岡からスウェーデンでの展示会場までの陸路移動をもとにした作品や、18段の跳び箱を使ったパフォーマンスなど、福岡を拠点に国内外で独創的な表現を行う。

当日の様子



完成に近づいてきた！



集中して少しずつ線を描いていこう。「手首を動かさないほうがよく焼けるみたい」



眼を守るためにサングラスを掛けましょう。



広いスペースでみんな思い思いに作品づくりをしています。



まずは木の板に鉛筆で下書き。何を描こうかな～



「板を傾けると集光点が変わって焦げやすいね。あ、オレ理科の先生みたい……」(宮田さん)



おみごと！昆虫が描けました。



最後は大きな1枚の板を宇宙に見立てて、全員で星を描きました。

みんなどうだった？
感想を聞かせてください



太陽は暑かった…。これは大きなバス！



何を描くか決めなかったけど面白い模様が出来た！



太陽に光をあてるのが難しかったけど、ハートが描けて嬉しい。



絵を描くのはじめて虫眼鏡を使って楽しかったよ。これは土星…かな？



クワガタのはさみのガタガタを描くのが難しかった(兄)お兄ちゃんと一緒にできて嬉しかった(弟)



さくらんぼ、みかん、りんご！虫眼鏡の使い方が面白かった。

魚が大好きだから、イルカがジャンプしているところ。



宮田君平さんの感想

2時間の長丁場でしたが子どもたちの何かを作ることへの情熱は素晴らしい！自然の力を使ったからこそ「何を描くか決めなかった」など、プロセスを楽しむ子どもがいたのが印象的でした。雲が出たら焼けないとか、人の都合で「いつも利用できるわけではない」けど、自然の力を借りて色んなことを実現できることに気づいてくれたら嬉しい。次は、水や風のエネルギーを使った遊びも企画してみたいですね。



よく頑張ったね！満足げな子どもたちの表情を見てほっとひと息。

事業担当者の感想

根気のある作業にも関わらず、真剣に作品づくりに取り組んでいた子どもたち。実際にやってみると感じた難しさや驚きは、最初に宮田さんが話してくれた「身のまわりの自然の力で何ができるか」を考えると、感性豊かなアーティストとの出会いを創出していきます。(事業コーディネーター 猪股春香)

魔法の額縁

講師 吉永有里さん
魔法の呪文にかかって絵になるろう！



ハロウィンが終わってすぐの休日。みんなでオリジナルの額縁を作り、完成品を持って赤煉瓦文化館までミニパレードをしました。その後、吉永有里さんの呪文によって、子どもたちは額縁の中の絵に変身！雲囲気ある洋館に、ひととき魔法の美術館が現れました。親子同士での写真撮影はとっても賑やか。自由に作ったり、緊張感の中で演じたり…まるでハリのある一日を楽しみました。

むすびかざり

講師 武内貴子さん
カラダを結び飾るアクセサリをつくらう！



文化芸術情報館アトリエにて、リボンや布のハギレを利用したアクセサリを作りました。武内貴子さんは、日本文化のひとつである「むすぶ」行為に着目して作品を創り続けるアーティスト。色とりどりのリボンの中から、職人のまなざしで素材を吟味し、思い思いのアクセサリを作る子どもたちの姿が印象的でした。日頃見慣れているものが、アイデア次第で素敵な作品になることを体感。完成後は、みんなにっこり！

<イムズパフォーミングアーツ シリーズ2014>

踊りに行くぜ!! II (セカンド) vol.4 福岡公演

ダンス作品をつくるプロジェクトとして、全国各地で展開中の「踊りに行くぜ!! II (セカンド)」。ここ福岡では、振付家の長内裕美さんが地元パフォーマーと共に新作に取り組んでいます。福岡で活動している山本泰輔さんの作品にもご期待ください。



©塚田洋一
長内裕美「SKYBAUM (2012)」

日時: 3月1日(土) 19:00
会場: イムズホール(イムズ9F)
上演作品: 「渚の風 <聞こえる編>」(振付: 黒沢美香)
「4... soku」(振付: 青木尚哉)
「Turning Point」(振付: 長内裕美)
福岡地元枠作品 (振付: 山本泰輔)

料金: [一般] 2,500円(当日3,000円) [学生] 1,500円(当日2,000円)
チケット取扱: アートマネージメントセンター福岡 (AMCF)、アトリエ、JCDNダンスリザーブ
※12月20日(金)発売予定

問合せ: アートマネージメントセンター福岡 (AMCF) 担当: 王丸
Tel: 092-752-8880 / E-mail: ohmaru@amcf.jp

JCDN国際ダンス・イン・レジデンス・エクスチェンジ・プロジェクト
韓国-日本 共同制作プログラム

韓国の振付家 チョン・ヨンドウ氏をメインアーティストとして迎え、昨年度スタートしたプロジェクト。アーティストならではの視点で、街に生きる様々な人へのインタビューやリサーチを行いながら、日韓の音楽家・映像作家・美術家など多ジャンルのアーティストとコラボレーションして作品を創り、発信します。今年はトークイベントなどの関連企画も予定。詳細は決まり次第財団ホームページにてお知らせします。



2012年度公演の様子

日時: 3月14日(金)・15日(土)
会場: ぼんプラザホールほか

福岡ダンスフリンジフェスティバル
~ダンスの発火点~ vol.7

国内外の新進鋭の振付家・ダンサーが福岡に集結し、今まさに沸騰する旬のダンスをお届けします。ダンスワークショップや海外ゲストによるトークイベントも開催!
公式サイト d-codex.asia/fdff/



参加アーティストの
Kim Bong Soo

<Main Program>

参加アーティスト:
Kim Bong Soo(ソウル) / YANG Joo Hee(ソウル) / SCFフリンジ賞受賞作品/ Xu Shuiliang(中国) / 伊達麻衣子(ベルリン) / 長内裕美(東京) / 加藤正汰郎(札幌) / 木室陽一&つるた薫(松山・福岡) / 黒須育海(東京) / 小谷美月(埼玉) / COLONCH(東京・岡山) / 高橋和誠(東京・青森) / プッチャーニ(ベルリン・熊本) / Betty Bears' Cabaret(東京・福岡) / 宝栄美希(東京) / 山本泰輔 & ダンサーズ(福岡)

日時: 2月8日(土) A 15:30 / B 19:00, 2月9日(日) C 14:30 / D 18:00
会場: ぼんプラザホール
料金: 各回[一般] 2,000円 [学生] 1,500円 (当日は共に2,500円)
1日券 3,500円(A・Bセット、C・Dセットのどちらか)
2日券 6,000円(A・B・C・Dすべて鑑賞可)
※1日券、2日券は数量限定で前売りのみ販売。※未就学児入場不可。
チケット取扱: フリンジ公式HP(予約フォームあり)
d-codex.asia/fdff/
ローソンチケット Tel: 0570-084-008
(Lコード1回券82085/1日券82086/2日券82087)
アトリエ Tel: 092-281-0103(店頭販売)

<Special Night Program>

参加アーティスト:
垣内美希(北九州) / 青☆春アンバサダー(福岡) / Sora(福岡) / 高須悠嵩(岡山) / 山口佳子(岡山)
日時: 2月8日(土) 21:30
会場: 紺屋2023 konya gallery
料金: [一般] 2,000円 [学生] 1,500円 (当日は共に2,500円)
チケット取扱: フリンジ公式HP(予約フォームあり) d-codex.asia/fdff/
<関連イベント>
世界的ダンサー・振付家によるスペシャルワークショップ開催!
A. 1/24(金)・1/27(月)・2/6(木) スーザン・バージュ
B. 2/4(火) 康本雅子 C. 2/5(水) キム・ボンス
問合せ: NPO 法人コデックス
Tel: 080-5202-1837 / E-mail: codex7000@d-codex.com

美術

エイブル・アート2014「フラグ- Lifemap -」

障がいのある人の芸術活動を通し、社会におけるさまざまな価値観を捉え直すことを目的とした企画展「Lifemap」。今回のタイトルは「フラグ」。公募により集まった障がいのあるアーティストと共に、パフォーミングアーツの制作・発表を予定しています。アーティストたちの記憶をもとに、ダンス、演劇、映像など、個々の意志や感性から生まれた舞台です。



©富永亜紀子

日時: 2月1日(土)・2日(日)
会場: FACTORY UNVELASHU / ファクトリー アンベラシウ (中央区港)

※詳細は決まり次第財団ホームページにてお知らせします。
問合せ: Lifemap事務局(樋口・船津丸)
Tel: 092-562-8684 / Fax: 092-562-8688 /
E-mail: marulab@maruworks.org

美術

九大生AQAプロジェクトによる現代美術展

九州大学で美学美術史を学ぶ学生によるAQAプロジェクトの美術展が、ついに最終回を迎えます。ラストを飾る国として彼らが選んだのはインドネシア。「世界の在りか」をテーマに、インドネシアと日本の現代美術の最新動向を紹介します。

日時: 2月14日(金)~25日(火) 10:00~20:00 (最終日は18:00迄)
※水曜休館
会場: 福岡アジア美術館 交流ギャラリー(博多リバレイン8階)
料金: 無料

<関連イベント>
アトリエ ラウンジ・コンサート
本格的クラシック音楽を間近で楽しめる人気企画が現代美術展とコラボ!
日時: 2月21日(金) 18:00~19:00
会場: 福岡アジア美術館 交流ギャラリー(博多リバレイン8階)
料金: 無料
出演: 大山平一郎氏(ヴィオラ)ほか
※当日17時から19時頃まで展示作品をご覧いただくことができません。

市民芸術祭

平成26年度福岡市民芸術祭 参加行事募集(第1次)

福岡市民芸術祭が新たに生まれ変わります!

①「一般プログラム」(従来の参加行事)に、重点支援を行う②「フォーカスプログラム」が加わり、個人参加も可能に。②では、ジャンルを超え自由で創造的な活動を、奨励金(総額50万円以内で3件程度)や広報協力などで応援します。初めての方もぜひご応募ください。



対象行事: 平成26年9月28日(日)~12月7日(日)に福岡市内の会場で公開される行事。
申込方法: 所定の申込書を使用のこと。申込書は財団ホームページからダウンロードできるほか、財団事務所、情報プラザ(福岡市役所1階)にて配布。アトリエでも配布・受付(土日祝日も可)。
応募締切: 1月31日(金) 必着
※持参の場合、財団事務所は17:00迄、アトリエは19:30迄
※メールによる申込書送付先 / geijutsusai@ffac.or.jp
※ウェブサイト: http://www.ffac.or.jp/support/festival.html

FFAC information

イベント情報の問合せ先

Tel: 092-263-6265 / Fax: 092-263-6259 / E-mail: pro-c@ffac.or.jp
最新情報は FFAC ホームページへ http://www.ffac.or.jp/

伝統芸能

イムズパフォーミングアーツシリーズ 2013 Vol.1
「文楽いろはレクチャー」 ~知るともっと、面白い。

毎年大好評の「文楽いろはレクチャー」が、再びイムズに登場! 文楽は、太夫・三味線・人形遣いの三業が一体となって表現する、日本が世界に誇る伝統芸術です。本公演では、文楽の本場・大阪の人形浄瑠璃文楽座技芸員が太夫の語りや人形の動きなど、見どころをわかりやすく解説。人形遣い等「技」の体験コーナーもあり、初心者でも楽しめます。日本人の美意識あふれる、文楽の魅力にふれてみませんか。



日時: 2月1日(土) 14:00開演(13:00開場)
会場: イムズホール(イムズ9F)
料金: 全席自由 [一般] 前売 2,000円 当日 2,500円
[学生] 前売・当日 1,500円

※公演当日は要学生証提示。未就学児童入場不可
出演: 太夫 / 豊竹睦夫 三味線 / 野澤喜一郎 人形 / 吉田一輔ほか
実演: 「傾城阿波の鳴門」より「巡礼歌の段」
チケット取扱:
ローソンチケット Tel: 0570-084-008(Lコード82226)
チケットぴあ Tel: 0570-02-9999(Pコード433-483)
アトリエ(店頭販売) Tel: 092-281-0103
財団ホームページ http://www.ffac.or.jp/ticket/

演劇

2013福岡舞台芸術シリーズ FFAC PLUS+
だからどぼっ
DULL-COLORED POP 『アクアリウム』

今年度のFFAC PLUS+のトリを飾るのは、福岡初登場のDULL-COLORED POP。劇作家・翻訳家・演出家として、多方面に活躍し、南果歩や石丸幹二など、有名俳優の舞台演出も手掛ける主宰・谷賢一が今回描くのは、キレる14歳、キレる17歳、酒鬼薔薇世代と呼ばれた自らの同世代について問い直す意欲作! 東京での1ヶ月ロングランを終えたのち、全国ツアー第1弾となる福岡公演です。お見逃しなく!



日時: 1月10日(金) 19:30, 11日(土) 14:00, 18:00, 12日(日) 14:00
会場: ぼんプラザホール (全席自由)
作・演出: 谷賢一
出演: 東谷英人、大原研二、中村梨那、堀奈津美、若林えり、百花亜希ほか
料金: [一般] 前売 2,500円 当日 3,000円
[学生] 前売 2,000円 当日 2,500円
高校演劇部割引 500円(要予約・福岡県内のみ)

問合せ: DULL-COLORED POP
HP: http://www.dccpop.org / E-mail: info@dccpop.org

はじめよう! アートを楽しむ暮らし

お待たせしました!! 平成26年度 賛助会 **わの会** 会員募集

1月21日(火)より、入会予約受付スタート!

わの会キャラクター ミルワ(Milwa)

特典1

福岡市美術館
福岡アジア美術館
福岡市博物館
常設展は **フリーパス**
特別展は団体料金で♪
(一部を除く)

特典2

提携施設も **特別価格!**
約50の美術館、博物館、映画館などで割引あり。

特典3

年4回 **最新情報**をお届け
機関誌「wa」や
アートイベント情報を送付。

特典4

文化・アートを **学べる**
各分野の専門家による
会員様限定講座を開催。

年会費 / 有効期間

一般会員(個人) 全期2,000円 平成26年4月1日~平成27年3月31日
半期1,500円 平成26年10月1日~平成27年3月31日
法人会員 10,000円 平成26年4月1日~平成27年3月31日

入会受付場所

文化芸術情報館アトリエ
福岡市美術館ブックショップ
福岡市博物館ミュージアムショップ

問い合わせ先
総務課総務係
TEL: 092-263-6257
FAX: 092-263-6259
E-mail: wa@ffac.or.jp



暗くて怖くてちょっと不思議
上田宇三郎の描く「闇」

福岡市美術館 吉田暁子

「闇」の手ざわりってどんなもの
でしょう。上田宇三郎はそれ
をよく知っている人だったので
ないか、ポスターとチラシにな
った作品《人物 二重像》(194
6年 福岡県立美術館所蔵)を
見ると、そんな気がしてきます。
「深い闇」という言葉はありま
すが、「闇」がもの陰影を無くし
空間の深さを見失わせることは、
夜道で迷ってしまった経験を持
つ方なら必ずわかるでしょう。
《人物 二重像》の画面は、そ
んな「闇」の一面を切り出して
きたようにクールで、ひやっとす
るような怖さを感じさせます。

10年以上後に描かれた「樹林」
シリーズは、果てしない広がり
を感じさせる闇です。当時、抽
象画への関心を高めていた上田
は木々を直線で描き、その上に
天体のような緑色の円形を描き
ました。この世のものとは思え
ない不思議な光景には、「宇宙
線」という当時最先端の科学的
知識を得たことが生かされてい
ると考えられます。



上田宇三郎《人物 二重像》1946年、福岡県立美術館所蔵

福岡市美術館 <http://museum.city.fukuoka.jp/>

「没後50年 上田宇三郎展
—もうひとつの時間へ—」
12月18日(水) -
2014年2月16日(日)

福岡出身の日本画家、上田
宇三郎(1912-1964)の没
後50年を記念する、初の個
展形式による回顧展。新出
の作品を含む約50点の作
品を通じて彼の画業を振り
返ります。
会場:福岡市美術館企画展
示室(2階常設展示室内)

museums&theaters 1-3月 展覧会情報

福岡アジア美術館 Tel: 092-263-1100

東京・ソウル・台北・長春 — 官展にみる近代美術
2月13日(木)~3月18日(火)

近代の東アジア(韓国、台湾、
中国東北部、日本)で、日本の
統治を背景に開催された官設の
美術展覧会を見直し、東アジア
近代美術の知られざる側面や、
それぞれの近代美術の特性を明
らかにする。出品作品は韓国、
台湾、日本国内から借用する約
130点。



林玉山 「futaba」
1944年 台北市立美術館所蔵

招待券 5組10名様 締切1月31日(金)

福岡市博物館 Tel: 092-845-5011

光の賛歌 印象派展
パリ、セーヌ、ノルマンディの水辺をたどる旅
1月15日(水)~3月2日(日)

世界7ヶ国の有名美術館37館から印
象派の名画が集結!印象派の画家た
ちが活躍した19世紀後半は、水辺が
余暇を過ごす場所としてクローズ
アップされた時代でした。本展で
は、セーヌやノルマンディの「水
辺」を舞台に描かれた約80点の作品
で、印象派の画家たちが追い求めた
「光の中の風景」に迫ります。



アルフレッド・シスレー
《春の小さな草地》1880年
油彩 / カンヴァステート
©Tate, London 2013

招待券 5組10名様 締切1月31日(金)

福岡市美術館 Tel: 092-714-6051

想像しなおい
1月5日(日)~2月23日(日)

新進気鋭のアーティスト6名
(狩野哲郎・川辺ナホ・大西
康明・手塚愛子・山本高之・
山内光枝)を取り上げるグ
ループ展。既成の枠組みをず
らし、読み替え、新たなもの
の見方・捉え方へと鑑賞者を
誘う彼らの新作インスタレ
ーションで会場を構成する。



大西康明《垂直の隙間》2013年
photo: Takuya Oshima (参考図版)

招待券 5組10名様 締切1月31日(金)

九州国立博物館 Tel: 050-5542-8600

特別展「国宝 大神社展」
1月15日(水)~3月9日(日)

神々の息吹を伝える至宝の数々
が集結。神道美術を総合的に展
観する、国宝57作品、重要文化財
65作品、九州初公開7割超の過
去最大規模の展覧会です。日本
の歴史と文化と信仰に育まれた
神道美術の粋を鑑賞し、太古よ
り息づく豊かな神々の世界を感
じて下さい。

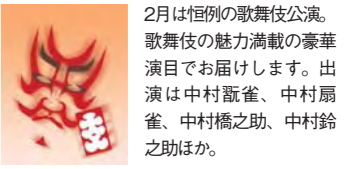


熊野夫須美大神坐像
平安時代・9世紀
和歌山・熊野速玉大社所蔵

招待券 5組10名様 締切1月31日(金)

博多座 Tel: 092-263-5555

博多座開場15周年記念
二月博多座大歌舞伎
2月2日(日)~25日(火)

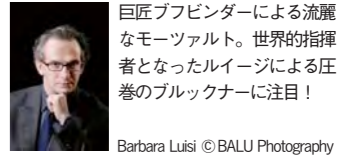


2月は恒例の歌舞伎公演。
歌舞伎の魅力満載の豪華
演目でお届けします。出
演は中村翫雀、中村扇
雀、中村橋之助、中村鈴
之助ほか。

アクロス福岡 Tel: 092-725-9112

NHK交響楽団 特別演奏会

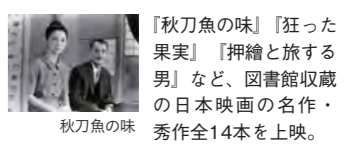
1月19日(日) 17:00開演



巨匠プフピンダーによる流麗
なモーツァルト。世界的指揮
者となったルイーズによる圧
巻のブルックナーに注目!
Barbara Luisi © BALU Photography

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ
Tel: 092-852-0600

日本映画名作展
1月5日(日)~26日(日) ※休館日・休映日除く



「秋刀魚の味」[狂った
果実] [押絵と旅する
男] など、図書館収蔵
の日本映画の名作・
秀作全14本を上映。

読者プレゼント! 下記を明記のうえ、郵便ハガキ、FAX、またはメールにてご応募ください。

- ①ご希望のプレゼントの美術館・博物館名 ②住所・氏名・年齢・電話番号
 - ③『wa』に手にした場所 ④よかったページ ⑤興味がなかったページ
 - ⑥本誌以外で、アートに関する情報をどこから得ていますか
 - ⑦本誌や財団に期待すること、ご意見など
- 応募先:
福岡市文化芸術振興財団 機関誌『wa』編集部
〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-10 福岡消防会館6F
Fax: 092-263-6259 / E-mail: pr-co@ffac.or.jp

【編集後記】 表紙撮影の後、桑迫さん夫妻に昼食をごちそうになりました。台所にはガスも電子レンジもなし。採れたての野菜を薪オープンで調理したスープやキッシュの美味しいこと! 不思議と多くのアーティストを惹きつけている雪浦の空気を感じに、ぜひ出かけてみてください。(内田)



九州戯曲賞×福岡市地下鉄

地下鉄のある街

scene.3 生活圏

第4回九州戯曲賞大賞受賞

川津羊太郎

九州戯曲賞で受賞した劇作家による、
地下鉄を舞台にした読み切りエッセイ。

大 学生のころ通学の足は地下鉄
だった。ある日、帰宅するた
め最寄り駅から地上に出て、交差点
で信号待ちをしているとき、ふと、
目の前の道路の地中に、駅の空間が
広がっている様子を思い浮かべてみ
た。たった今通ってきたばかりだか
ら、通路の地形や改札の位置は、だ
いたい分かる。ちょうどあの赤い軽
自動車か右折待ちしている辺りが、
自動改札の真上だ。その改札を通っ
てホームへと下る階段は、あのへ
ん。角のコンビニくらいから向こう
のクリーニング店くらいまで、まっ
すぐホームが延びているはずだ。そ
して線路は、さらにその先へと続い
てゆく。

帰宅の道すがら、地下を走る線路
を頭の中でたどっていくと、当時ば
らくの住んでいたアパートは、地下路
線の真上に建っていた。その夜、た
ぶん錯覚ではあるだろうけど、蒲団
に横になっていてと地中から電車の
かすかな振動が伝わってくる気がし
た。首のうしろがムズムズした。
翌朝、通学のために地下鉄に乗り
こんだときも何だかヘンな感じだっ
た。「あ、このへんがアパートの真下
かな」と思ったのとほぼ同時に、首
にあのムズムズが蘇った。そのふし
ぎな感覚は、しかも一過性のものじ
やなく、その後何度となく首のうし
ろに現れるようになった。きまっつ
て地下鉄がアパートの真下を通過する
くらいのタイミンクで。
やがて、学校近くの駅が近づくと
イヤミンクでも、首にムズムズが起こ
りはじめた。わずかに間隔を空けて

く、どうやらそれは、学校の真下
を通るときと、バイト先の飲食店の
下を電車が通るタイミンク、つぼか
った。
地下鉄がぼくの生活圏を潜ると
き、ぼくの首のうしろに芽生えた生
体アンテナが、それを察知するらし
い。友人に話しても笑われただけだ
った。
あるとき、また新たなポイントで
首のうしろがムズムズするようにな
った。ぼくのアパートと学校の、ち
ょうど中間あたり。でも、そのあた
りの土地には行ったことがなかつ
た。気になって地図で場所を割り出
してみると、そこには小さな喫茶店
があるらしかった。
何の予定も入っていない休日、ぼ
くはふだん降りたことのない駅で電

車を降り、その喫茶店に行ってみた。
するとそこに、とても可愛い店員さ
んがいた。ぼくはその店の常連にな
って、数ヶ月後、彼女と付き合い始
めた。
月日が過ぎ、ぼくは就職をして、
アパートも引越して、通勤のために使
う路線も変わった。新しいマンショ
ンも、会社も、地下鉄の線路上から
だいぶ外れてしまったらしく、もう
めったに首のムズムズを感じることは
なくなつた。入社五年目にぼくは
昇進して、それを機に、というわけ
じゃないけど彼女にプロポーズをし
た。彼女は笑ってOKしてくれた。
そして最近、早朝の地下鉄に揺ら
れながら、ぼくはまた首のうしろに
ムズムズを感じるようになった。や
っぱり、いつも決まったポイントで。
ネットで調べてみると、そのムズム
ズの真上には、どうやら近所でも評
判のいい産院があるらしい。

帰宅の道すがら、地下を走る線路
を頭の中でたどっていくと、当時ば
らくの住んでいたアパートは、地下路
線の真上に建っていた。その夜、た
ぶん錯覚ではあるだろうけど、蒲団
に横になっていてと地中から電車の
かすかな振動が伝わってくる気がし
た。首のうしろがムズムズした。
翌朝、通学のために地下鉄に乗り
こんだときも何だかヘンな感じだっ
た。「あ、このへんがアパートの真下
かな」と思ったのとほぼ同時に、首
にあのムズムズが蘇った。そのふし
ぎな感覚は、しかも一過性のものじ
やなく、その後何度となく首のうし
ろに現れるようになった。きまっつ
て地下鉄がアパートの真下を通過する
くらいのタイミンクで。
やがて、学校近くの駅が近づくと
イヤミンクでも、首にムズムズが起こ
りはじめた。わずかに間隔を空けて

川津羊太郎(かわづようたろう)
1976年熊本県生まれ。2010
年に初めて執筆した戯曲「妾
剥離」が第3回九州戯曲賞最
優秀候補に選ばれる。2011年
、「白霧狂ひつ、闇裂きつ。」で
泉鏡花記念金沢戯曲大賞・佳
作受賞。さらに2012年、「憑依」
で第4回九州戯曲賞大賞を受
賞。己の妄想を具現化すべく、
現在も鋭意執筆中。

九州戯曲賞とは? 九州を拠点とする劇作家の優れた作品を顕彰するため、2009年創設。最終審査員は九州出身又は九州にゆかりの深い著名な劇作家が務める。

おでかけは環境にやさしい地下鉄で。

1日乗車券 大人600円 (小児割引は300円)
さらに土・日・祝は1日乗車券が500円 (小児割引は250円)
お客様サービスセンター(各種案内) Tel: 092-734-7800 (利用時間: 8:00~20:00 年中無休)
<http://subway.city.fukuoka.lg.jp>

駅まで歩く、
駅から歩く。